

RID2660 地区国際奉仕委員会 NEWS LETTER

2021-22 年度 第 4 号



SERVE TO CHANGE LIVES



< 2022 年 国際大会 >
ヒューストン

●国際大会●
2022 年 6 月 4 日～8 日

●大阪地区ナイト●
2022 年 6 月 4 日 夕刻予定
(詳細は後日ご案内いたします)

皆様のご登録・ご参加を
お待ちしております。

大会の詳細については
My Rotary に随時掲載されますので、
下記リンクよりご確認ください。

<https://convention.rotary.org/ja>

ご挨拶

2021-22 年度 地区国際奉仕委員会
委員 津村 昌明

平素は地区国際奉仕委員会の活動にご理解を賜り、誠に有難うございます。新春の季節を迎え、春らしい陽気に日本の四季への感謝を感じる毎日です。会員の皆様におかれましては、コロナの影響やウクライナ問題が世界を脅かす中で変化の多い状況をお過ごしのことと存じます。

地区国際奉仕委員会ではこの度、NEWS LETTER 第 4 号を発行させて頂く運びとなりました。第 1 号から 3 号に続きまして、今回は大阪堂島ロータリークラブ様のアフリカ・コンゴ共和国での就職支援事業をご紹介します。

今更ながら、国際奉仕活動の魅力は

1. クラブ内会員間の結束が高まり、会員同士の交流が深まる事
2. 国際奉仕活動でしか行けない場所・経験が出来、貴重な体験を積むことが出来る点
3. 海外でお困りの人々のお役に立てることを目的とし、奉仕活動を通して社会貢献が出来る事、ではないでしょうか。

先の見通せないコロナ禍の影響により海外への出入国が難しい状況ですが、今回取材をさせて頂いたコンゴ共和国での就職支援事業では様々な工夫と現地との連携を緊密に行っておられ、コロナ禍でも出来る国際奉仕活動を実現されております。

是非ご一読賜り、未来に続くロータリー活動の一助にして頂けましたら幸いです。

NEWS LETTER 2021-22 年度 第 4 号



(大阪堂島 RC 尾島 康弘 会員)

<聞き手> 地区国際奉仕委員会 坂本委員 (以下「坂本」)

<受け手> 大阪堂島 RC 尾島会員 (以下「尾島」)

〔支援のきっかけ〕

坂本：まず、コンゴ共和国での国際奉仕活動を行うきっかけとなったのは、
どういった経緯からでしょうか？

尾島：私は、この国際奉仕事業に取り組む前に、自クラブで青少年奉仕
委員長を担っていました。その青少年奉仕の取り組みの中でお知
り合いになった方の中に、外国の方がいらっしゃいました。その方から
ケニアに対する国際奉仕の件をお伺いし、何かお手伝いできない
かと考えたのがきっかけです。

坂本：ということは、現在取り組まれています「コンゴ共和国」に対する
支援の前にケニアに対して同じような支援に取り組まれていた、
ということですね。コンゴ共和国への支援はその発展形という認識
でよろしいでしょうか。

尾島：そうです。ケニアに対しては計画通り4期支援を行いました。
4期目でほぼ目的も達成されていました。その支援事業の中で
コンゴの方と出会いました。そしてコンゴの状況を知らされ、かなり
大きな衝撃を受けました。これはぜひともロータリークラブで協力を
したいと考え、取り組み始めましたが、非常に困難を極めました。
ケニアの場合は現地にも日本国内にもコーディネーター的役割を
担っていただける日本人がいらっしゃいましたが、コンゴの場合はその
段階では誰もいない。しかもロータリークラブで求められる支援に
対するエビデンスをつけるというのも非常に困難です。ケニアで食糧
支援を行った最初の時は、小さな暴動まで起こっています。食料を
積載しているトラックに民衆が群がり、奪い合いで収集がつかなく
なったこともしばしばです。日本での常識とケニアでの常識とは全然
違い日本での考えは通用しないということです。それも踏まえたうえ
で、4年前の2018年にコンゴの準備にかかりました。

〔現地のコーディネーターの見つけ方〕

尾島：こういった国際奉仕における最重要課題は、どうやって信用の
おけるパートナーを獲得するか、何をもって信用に足ると判断する
のか。書類を揃えれば信用に値するエビデンスと言えるのか。ここ
は誰に聞いても明確な答えは返ってこなかった。

しかし、書類は揃えて提出しなければ事業として成立しない。

大阪堂島ロータリークラブ

<例会場>

ANA クラウンプラザホテル大阪
大阪市北区堂島浜 1-3-1
TEL：06-6347-1112(代表)
ビジターフィー 4,600円

<例会日時>

毎月 第 1・3 月曜日 12:30～13:30
会員数 46名 (2022年2月末現在)



そのうえで、今までの事業の中で知り合えた人から現地で信用に足る人間を紹介していただき、更にその人物がどのような考えを持っているのかは、何度も何度も打ち合わせを繰り返して探っていくしかありませんでした。時間をかけてその人が本当に信用に足る人間なのかを見極める事が重要でした。それで4年間をかけて少しずつ実行に移し、現在の支援へ繋げることができました。ここまでのポイントはやはり人脈だと思います。どうやってその事業に必要な人にたどり着くのか、思いも重要だと思います。

坂本：偶然性や運ではないということですか。気持ち次第でたどり着けるものだと思いますか。

尾島：その通りですね。現在ならウクライナとロシアの問題。ウクライナ人の困っている人を支援するとしても、どうやって本当に困っている人を探すのか。ウクライナ人なら誰でもいいというわけにはいかないのと同じで、アフリカ・コンゴにもニーズがあるが、それをどうやって見つけ出すのか、その人によって支援内容も大きく変わってくるので、パートナー選びは重要です。経験からすると政府関係の人物より、民間企業に関わる人や貿易に携わっている人の方が、人間関係がより密に働いているので信用に値すると思います。自分のまわりを良く見渡して、必ず一人や二人はいるはずですから、そこから突破口を見出していくと良いと思います。

〔期待される効果〕

坂本：今回実施された支援によって必要と感じたものは何でしょうか。

尾島：まずは「情報」です。自分の周りにある情報。そして自分の周り以外の所にある情報。この二つの情報を自分の中で精査して判断し自分の進むべき道を決定していくことはとても重要です。自分の周りだけだととても小さい社会でしかありません。PCと通信環境を得ることによってインターネットで全世界と繋がり、情報を得ることができる。これはとても重要だと思います。

二つ目は「就職支援」です。PCの作業ができることにより、最低限の就職活動が国内だけではなく国外でも可能になります。

この2つがないばかりに、現在のアフリカではいまだに1日10円で穴を掘る、などということが日常的に行われています。それは、教育制度が一部の地域を除いて整っていないが為ですが、情報の圧倒的な不足もその一因であり、そのためのツール、使い方、キーボードの打ち方、そして新しい教育の形（インターネット通信による教育）を得られるのではないかと。それによって、正しい価値判断ができるようになるのではないかと。そのお手伝いが少しでもできればいいと思っています。

〔今後の展開〕

坂本：今回の支援の先の展望はどのようにお考えでしょうか。期間だとか、求めている達成率はあるのでしょうか。

また、次なる支援を考えておられるのでしょうか。

尾島：今後の展開につきましては、日本のような夢も希望も持てるような世界を作りたい。それには、今回のPC、ソーラーパネルの支援にとどまらず、文字を教える学校、その先にあるもの。技術支援、車や、建築技術、等の職業訓練校を作っていききたい。そして、その科目も増やしていきたい。例えば、私の知り合いの元金融庁長官はパキスタンで簿記を教えている。簿記を教えることによって高等な計算ができるようになり、騙されにくくなる。そういった知識を増やして全体を底上げできるような支援に取り組みたいです。

坂本：最後に我々、ロータリークラブが行う国際支援と現地が求めている支援とが必ずしも合致しているとは限らないと思いますが、その他現地からの要望がございましたら教えてください。

尾島：現地からの要望は初歩的なことばかりで、鉛筆がない、机がない、それを入れる建物が無いなどです。今回、PCを送りますが、設置する部屋も本当はなく、ミシンの実習室を半分区切って設置するのです。電気やコンセントすらなく、そのためにソーラーパネルが必要です。現在（3月22日時点）、パートナーであるセンダさんが現地入りしております、もうすぐ日本へ帰ってこられます。そうすれば贈呈式の打ち合わせもできるはずですが、現地の通信状況も決して良好ではないので、贈呈式はおそらく音声のみになると思います。わかりやすく言えば、砂漠で事業を行うというイメージをしていただければわかりやすいかもしれません。電気もガスも水道も何もないところです。また、是非とも一度現地へ足を運んでもらってその目で見えていただくことが重要だと思います。そして肌で感じてもらうことが重要だと思います。

坂本：ありがとうございました。大変参考になりました。今後も非常に困難な支援事業かと思いますが、頑張ってください。我々もできる限りのお手伝いをさせていただきたいと思います。



< 発刊 >

2021-22 年度

RID2660 地区国際奉仕委員会

委員長	北井 雄大	大阪平野
副委員長	津田 和義	大阪北梅田
副委員長	徳上 洋之	大阪リバーサイド
委員	津村 昌明	茨木西
委員	西本 恵美子	高槻
委員	中根 三恵子	大阪ユニバーサルシティ
委員	乾 禎則	池田くれは
委員	坂本 一成	吹田西
委員	井上 健一	高槻東
委員	尾島 康弘	大阪堂島
委員	上田 勝嗣	大阪西南
委員	木村 奈奈	大阪水都
委員	山本 章弘	大阪

■ 委員会 毎月第1木曜日(原則) ガバナー事務所にて開催 ■

News Letter に関する お問い合わせ

国際ロータリー第 2660 地区 ガバナー事務所
〒541-0052 大阪市中央区安土町 1-5-11 トヤマビル東館 6F
TEL : 06-6264-2660
E-mail : kamo@ri2660.gr.jp

NEWS LETTER 2021-22 年度 第 4 号